

2018年度 フルブライト語学アシスタント (FLTA)プログラム 奨学生募集



日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）は、英語教員または将来英語教育に携わる意志のある方を対象に、「フルブライト語学アシスタント（FLTA）プログラム」の申請者を募集します。

応募締切日：2017年8月31日（木）



The Fulbright Experience for Global Leaders

応募資格

- 日本在住で日本国籍を有すること。
- 学士号取得者または見込み者（2018年5月31日以前）で、下記のいずれかに該当する者
 - 英語教員免許保持者*
 - 将来英語教育に携わる意志のある者
 ※公立学校の現職教員の場合、下記「派遣法適用について」をご参照ください。
- プログラムの性質上、特に若手からの応募を歓迎する。
- 2015年8月～2017年8月実施のTOEFL79-80 (iBT) 以上、またはIELTS (Academic Module) 6.0以上のスコアレポートを提出すること。指定期間内に受験したのもでも、ITP TOEFL (Institutional Testing Program) および IELTS (General Training Module) のスコアは認めません。
- 上記期間に実施されたTOEFLまたはIELTSを受験し、その結果が基準点に達していない場合でも応募は可能（要相談）。ただし、その場合は2017年12月末までに上記基準点をクリアすること。

求められている人物像

- 物事に真摯に向き合い、誠実な人
- 積極的で環境適応能力がある人
- 分別があり、教えることにプロ意識をもつ人
- リーダーシップがあり、学生に学ぶ意欲を持たせ、アメリカの地域社会に母国の社会を代表して紹介できる人
- 創造力や自立心があり、チームプレイヤーとして派遣大学の教職員や学生と良い人間関係を保てる人
- 語学教員（アシスタント）と留学生としての役割を両立できる人
- プログラム終了後すぐに帰国し、FLTAとしての経験を日本の英語教育の現場で活かせる人

ビザ

J-1 Exchange Visitor Visa「政府スポンサーの交流訪問者」ビザ。訪米目的終了後、直ちに日本に帰国することが義務づけられています。米国に再入国する場合は、帰国後通算2年間日本に滞在したあとでないと、「移民」「短期役務」「会社転勤」などのビザを申請することができません。なお、FLTAプログラムは同伴家族のためのビザは発行できませんので、単身で渡米することになります。

「派遣法」適用について

公立学校の教員の場合、「外国の地方公共団体の機関等に派遣される一般職の地方公務員の処遇等に関する法律」（派遣法）に基づき、地方公務員の身分を保有したまま、プログラムに参加することが可能です。詳細は当委員会ホームページで確認してください。

重要事項

- いかなる場合も盗作行為 (plagiarism) を行った場合は、FLTA不適格者とみなされます。
- FLTAプログラム終了後、米国の大学に残って学位取得を希望する人は、FLTAではなく大学院留学プログラムに応募してください。併願は出来ません。

応募締切日

2017年8月31日（木）

選考日程

2017年8月31日（木）

オンライン願書提出締め切り。
推薦状、英文成績証明書・卒業証明書、TOEFLまたはIELTSスコアレポートも別途提出。

2017年 秋

日米教育委員会において審査（書面および面接）後、米国国務省に推薦。国務省およびIIEが最終選考を行う。

2018年4月頃

最終結果発表、派遣大学決定

2018年8月

アメリカ国内でのオリエンテーション（5日間）に参加後、各派遣大学に赴任。

応募に関する詳細は日米教育委員会の
ホームページを参照

<http://www.fulbright.jp/scholarship/programs/flta.html>

問い合わせ先および書類送付先

日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）
フルブライト交流部

業務時間：月～金 9:00～17:30

〒100-0014

東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル207

Tel: 03-3580-3233 FAX: 03-3580-1217

メールでのお問合せ：program@fulbright.jp

[f https://www.facebook.com/fulbrightjapan](https://www.facebook.com/fulbrightjapan)



フルブライト語学アシスタント (FLTA) プログラムとは

アメリカの大学で日本語を教えながら、

- ☑ 英語教育のスキルを高める
- ☑ 自身の英語能力を高める
- ☑ アメリカの社会や文化についての知識を深める

ことを目的とした、9ヶ月の学位取得を目的としないアメリカ留学奨学金プログラムです。

奨学期間 2018年8月～2019年5月(9ヶ月間)

募集人数 15名

活動内容

- アメリカの大学で1学年間(9ヶ月間)、週20時間を限度に日本語クラスを教員として担当または補佐する(派遣大学により異なる)。
- カルチャーイベント、日本語クラブ等を企画・運営する。
- 大学でアメリカ研究や英語教授法のクラスを受講する。

支給内容

- 履修する科目の授業料(各学期2コース)
- 給付金(派遣大学により異なる)。
- 宿舍・食事は大学より提供される(派遣大学により異なる)。
- 往復旅費(現物支給)
- フルブライト・グループ保険(傷害・疾病)
- 米国でのオリエンテーションやエンリッチメントカンファレンスへの参加

フルブライト・プログラムは、第二次世界大戦終了直後の1945年、「世界平和を達成するためには人と人との交流が最も有効である」との信念のもとにウィリアム・フルブライト上院議員が米国議会に提出した法案に基づいて発足した、米国と諸外国との相互理解を目的とする人物交流事業です。日米間のフルブライト・プログラムは、日米両国の共同管理、自治運営による日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)によって運営され、所属機関・居住地・人種および信条に関係なく応募者個人の資質に基づいて選考する一般公募の奨学金制度として国際的な評価を得ています。

フルブライトFLTAプログラムはフルブライト・プログラムのひとつとして日米教育委員会では2008年度から実施しています。

FLTA 同窓生の声 (最終レポートより抜粋)

◆Antioch College, Yellow Springsの方々にはハートがあります。9ヶ月の間、どこへ行っても地元の方があたたかく、優しく迎えてくださいました。特に東京で生まれ育った私にとっては大きな家族ができたようで、ここへ来てよかったですと心から思いました。渡米した直後は、小さな村での生活に戸惑うこともありましたが、日本への帰国日が迫るにつれ、「残りたい」という気持ちが芽生えてきました。学生や地元の方の中に、日本へは一時帰国すると思っていた方もいました。戻ってきてほしいと言いつたとき、達成感でうれしい気持ちとさみしい気持ちとで胸がいっぱいでした。アメリカに帰る場所ができました。近い将来また訪れるのがいまからとても楽しみです。



この経験を支えてくださった方々に心から感謝の気持ちでいっぱいです。なにより9ヶ月ともにご一緒したフランス・スペインからのふたりのFLTAは私の人生で特別な存在です。

キャリアアップや教授経験、語学習得など、「経験」にはいろいろな目的・意味があると思います。学んだこと・習得したことはたくさんありますが、どんな人に出会ってどんな素晴らしい瞬間を共有できるかが何にも代え難い特別なことだと思います。FLTAのプログラムを通して出会った方々、経験できたことは私の人生でかけがえのないものになりました。もしフルブライトFLTAの応募を迷っている方がいらっしゃったら、ぜひ、絶対に挑戦してください。(2015年度 Antioch College, OH)

◆あつという間の私のアメリカの1年が終わりました。終わってみるとあまりにも早く、あと1年あればもっと学べるものがあつたかもしれないと思わずにはいらませんでした。それでも、1回社会に出てからFLTAとなった事で、学生時代の留学とは比べものにならない程多くの事を得て、人脈を広げることができました。このような機会を与えてくださったIIE、日米教育委員会、Ursinus College、職場の先生方、そしていつでも無条件に応援してくれる家族に大変感謝しております。

教育の現場で、日々疑問に感じることや、自分の力不足を思い知ることは多々あります。これからの私の課題は、その中でも自分の学びを止めず、次なる目標を見つけ、そしてシンプルですが、自分のできる事を頑張るということです。

この1年間に多くの人から得た支援に応えられるよう、また、太陽輝く空崎で頑張ります! (2015年度 Ursinus College, PA)



◆私は、これまでに日本で英語を教える中で感じたジレンマや、より良くしたいという思いからFLTAプログラムに応募しました。プログラムを終えて改めて振り返って、本当にこのプログラムに参加できて良かったと思います。



語学アシスタントとしてアメリカの学生に関われたこと、教えるという経験ができたこと

で、日本の英語教育において変えていきたい部分が明確になってきました。また、日本語や日本文化を伝えることでのやりがいも感じることができました。そして何よりも、このプログラムを通じて人と人のつながりの大切さを感じました。教育においても、本質は人と人との関わりであり、学習者のことをよく知った上でこそ、教授法やアイデアが生かされると実感することができました。FLTAとしてアメリカで過ごした一瞬一瞬、すべての出会い、経験が、私にとってかけがえのない宝物となっています。これから、日本の英語教育をより良くしたいという私の夢を実現するために、さらに必要な知識や経験を身につけ、長期的には、日本の英語教育現場をサポートする仕組みを構築していきたいと考えています。そして、FLTAとして経験したこと、学んだことをしっかりと還元し、日本の英語教育に貢献していきたいです。(2015年度 Spelman College, GA)



◆FLTAにとって一番重要なことは英語力ではありません。効果的な授業ができる先生になれるよう、また尊敬される日本人になれるよう努力できる方であれば、出願時点で英語力が低くても、十分FLTAとして活躍できます。このプログラムでは、一生の思い出になる貴重な経験がたくさんできます。たとえ英語力に自信が無くても、ぜひ積極的に挑戦していただければと思います。(2015年度 Casper College, WY)



◆今振り返っても、アメリカでの9か月間は、大変濃縮された1年でした。そのため、帰国して日が経った今でも、確実に自分の考え方・感じ方に深い影響を残しています。アメリカに行く前、私は、自分が日本のことを知り、また日本の外で起きている出来事や情勢に関心を払っていたと思っていました。しかし、FLTAプログラムに参加してまず初めに感じたのが、自分が日本の文化や政治について何も考えていない、世界で起きていることに何も言うことがないことでした。考えていないというよりも、それを言葉にすることに慣れていなかったのかもしれない。しかし9か月を通して、様々な国々の異なる背景の人と出会い、彼らの考え方・宗教・生活習慣・文化に触れることによって、大げさではありませんが、グローバルな視点を養えたような気がします。そして、今では私なりに世の中に流れるに敏感でありたい、常に考え意見を持って、それを表したいと考えようになりました。また、日本という国を客観的に、自分の故郷を、これまでよりももっと大切に思えるようになりました。このような経験を、どう還元していくかが、私のこれからの課題です。(2015年度 Lincoln University, PA)



さらに詳しいレポートを、ウェブで公開しています。▶

<http://www.fulbright.jp/scholarship/programs/flta.html>